

青いトンチンボの夢に月ふたつ



音楽と踊りで贈るファンタジー人形劇

え

2024年11月3日(日) 19:00~20:30 真更川公民館 | 無料

Poster Design by Emmy Kangas ©

青いトンチンボの夢に月ふたつ

2024年11月3日(日) 19:00-20:30 真更川公民館 無料

助監督、戯曲の翻訳、出演：関野佳介

制作進行：Mana Short

詩と歌の翻訳：四元康祐

あらすじ

佐渡の春の夜。何にでも好奇心旺盛な子どもタヌキは、空に月がふたつあることに気づく。しかしふたつめの月の正体は、海岸近くで漁をしているイカ漁船の灯りだった。タヌキの父親は、酒を飲む邪魔になると言って、漁船の音と光に怒っている。

子タヌキはふたつめの月を見るために海岸に駆け下りる。そこで岩の上に立って漁船を眺めている人間の少女を見つけて驚く。少女はふたつめの月と、背後の森に眠る精霊に見惚れてしまい、まるで夢を見ているよう。少女はある秘密の恋についての、悲しく美しい歌を歌い始める。少女は眠りにつく村を抜け、田んぼへの坂を登り、タヌキの巣穴近くの森に入る。

子タヌキは人間が森に入っていくのを見たと言い、父タヌキは息子をからかう。子タヌキは人間のことも恋のこともまだ分からず、とても混乱している。子タヌキは母に言われて海岸沿いに餌を探しに行こうとするが、結局少女の後についていくことにする。

タヌキは少女を追って森の奥深くへと入っていく。その途中、龍が昔棲んでいたという、暗く底の見えない湖を通り過ぎる。龍の魂は奇妙な踊りの精霊となって、湖の周りを漂っている。

タヌキは少女の後を追いつき、ある神社にたどり着く。そこで二匹の狛犬たちがタヌキをからかう。狛犬たちは自分たちが石でできていることを隠して、タヌキに話しかける。タヌキは怯えるが、少女の後を追いつける。

そしてついに、丘を登った奥深くにある、廃墟となった寺院にたどり着く。そこで少女が立ち止まると、人間の姿が現れる。それは、何百年も前に京都から佐渡に島流しにされた歌人の亡霊だった。亡霊が誰かを想い慕う気持ち、その孤独な魂が少女を寺に引き寄せたのだった。しかし、ふたりは触れ合うことはできず、互いが属する異なる世界に閉じ込められたまま。亡霊は自身の流浪を歌い、消えていく。少女は地面に崩れ落ち、泣く。

タヌキは少女を気の毒に思い、匂いを嗅ぎながら忍び足で近づくが、少女は驚いて悲鳴を上げる。少女は一目散に村へと逃げ帰り、その時脱げたサンダルを片方落としていく。タヌキはそのサンダルを拾い上げ、自分の巣穴に持ち帰る。タヌキは空に浮かぶふたつの月、みつつの月、そして何百、何千もの月の夢を見る。喋る狛犬の夢、美しい音楽の夢。人間の世界はよく分からないが、タヌキの心の中で何かが変化する。

夜が明けると子タヌキは眠りにつき、人間たちは目を覚まし、それぞれの一日を始める。

参加者一覧



音楽: 永井晶子 (作曲家、アレンジャー、ピアニスト/アコーディオン奏者/即興演奏家) 名古屋出身。1996年に米国に移住し、バークリー音楽院を卒業しクラシックとジャズを学んで以来、米国、ヨーロッパを主に世界的に演奏活動。映画やライブパフォーマンス用のオリジナルスコアを作曲したりする多才な音楽アーティスト。彼女はキーボードの熟練をプリペアド・ピアノ、アコーディオン、モーグ・シンセサイザー、エレクトロニクスと多様な才能で音楽をあやつる。www.shokonagai.net



音楽: 武石聡 茨城県水戸市出身。ドラマー/パーカッショニスト/アレンジャーとして世界中で多忙な活動をしている。米国ボストンのバークリー音楽院を卒業後、南米コロンビアに4年間在住、その後New Yorkに移住。多くの音楽と人々に出会いさまざまなジャンルを横断した活動を行っている。



人形遣い: 秋葉よりえ NYでシアター&パペットアンサンブル グラシオフルオを立ち上げ、東京を拠点に人形創作劇を国内外で上演。10年目に解散し、現在は瞑想をテーマにパペットや自然をモチーフとするリトリートハウス「369の森サンクチュアリ」を経営しながら、瀬戸内海の離島にて創作活動を続ける。



人形遣い: 阿久津智美 東京生まれ。笠井叡にオイリュトミー、即興を学ぶ。現在ソロワークをベースに音楽家やパペットなどのアーティストとのコラボレーションやワークショップを行う。福祉施設でのアートワークやヨガやイールドのボディワークなど言葉に依らないコミュニケーションにも多く関わっている



語り部: 石原尚大 俳優「五条霊戦記GOJOE」でデビュー。2014年からジョン・ウィリアムズ監督の映画と演劇に参加。現在は演技コーチとしても活動。



踊り: 遊舞舎 慶子 舞踏家。1999年生まれ。東京藝術大学美術研究科グローバルアートプラクティス専攻修了。舞踏を軸としたパフォーマンスユニット「遊舞舎」主宰。都市における「まれびと」的存在(自然との接続を持ち、人間の本質的な奥底を共振させ得る他者)としての舞踏の在り方を探求する。



踊り: 遊舞舎 優子 舞踏家。1999年生まれ。遊舞舎所属。お茶の水女子大学大学院在学。舞踏を中嶋夏氏、相良ゆみ氏、久世龍五郎氏に師事。舞踏や郷土芸能をはじめとした舞踊文化における思想や精神性を探求し、創作活動を実践する。



戯曲: ジョン・ウィリアムズ トンチンボの仲間、イギリス、ウェールズ出身、映画監督、上智大学外国語学部教授



このイベントは上智大学比較文化研究所 共同研究ユニット“Exploring a Japanese Fishing Village through Art“、およびFoundation for Contemporary Arts Emergency Grantのサポートにより運営されています。

謝辞

内海部中学さま、和光電気商会さまをはじめこのイベントの実現に向けてご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

Memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....